

2018年11月27日



前橋市
 国立大学法人群馬大学
 日本中央バス株式会社

前橋市で自動運転バスの実証実験運行を開始します

営業路線バスの実運行環境・一般客乗車・長期で実施する、全国初の取組

前橋市（市長：山本龍）、国立大学法人群馬大学（学長：平塚浩士、以下「群馬大学」）、日本中央バス株式会社（所在地：群馬県前橋市、代表取締役：戸塚博恵、以下「日本中央バス」）は、上毛電鉄中央前橋駅と JR 前橋駅を結ぶシャトルバスでの「自動運転実証実験事業の実施に関する協定書（平成 29 年 10 月 20 日締結）」に基づいて、一般乗客がバス利用乗車しながらの実証実験を開始します。

都市部での長期の自動運転の実証実験は、他に例がありません（2018 年 12 月 14 日～2019 年 3 月 31 日）。また、バスの営業路線で運賃收受を行いながらの自動運転実証実験は、全国初の取組です。

中長期的に完全自動運転技術が確立されていけば、バス業界が抱える運転手不足の深刻な問題を解消していき、自家用自動車の運転に不安を感じる地域の人たちに対しては、公共財であるバスをはじめとした公共交通の確保が期待されます。

また、本実証実験を通じて、国土交通省都市局の協力のもと、都市部での自動運転バスの走行可能性や交通施設への影響、社会受容性等の課題を検証する予定です。

なお、実証実験に先立ち、12 月 12 日（水）に自動運転バス運行出発式を下記のとおり行います。

実施期間

2018 年 12 月 14 日（金）～ 2019 年 3 月 31 日（日）

- 実証実験運行：週 3～4 日間、通常ダイヤで運行します（次頁の「実験運行予定日」参照）
- 自動運転バス乗車：通常運賃で一般乗車いただけます
- 当日の荒天等により実験運行を中止することがあります

[自動運転バス運行出発式]

日時：2018 年 12 月 12 日（水）10 時～11 時

会場：上毛電鉄中央前橋駅

開催概要：実施主体代表者挨拶、実験概要説明、取材・フォトセッション・試乗(事前登録制) 等

自動運転バス車両・自動運転システム



操作画面イメージ図

実験車両：日野ポンチョをベースにした自動運転バス 1 台
 レベル 4 *相当で走行（ただし、走行時は運転席には運転者が乗車）
 *特定条件下においてシステムが全ての運転操作を行う

走行ルート指示・走行状態監視・乗降ドア開閉など、自動運転バスの安全な運行をサポートするための運行管制システム

自動運転技術	検証対象の動的運転タスク	検証目的/研究開発目的
侵入車両、歩行者、自転車等の検知と走行制御	<ul style="list-style-type: none"> ■決まったルートのみ、決められた速度以下での走行（2018 年 12 月開始） ■減速および停車の動的運転タスクの自動化（2019 年 2 月開始予定） 	自動運転バス向け走行環境条件設定の検証 車両技術とインフラ整備の追加的整備事項の検討 等
運行管制システム	<ul style="list-style-type: none"> ■乗車/降車時ドア開閉タスクの遠隔化（2019 年 1 月開始予定） 	走行状況/車室内状況モニタリング手法の高度化 無人自動運転移動サービス（バス運行/車内案内等）に必要な追加仕様検討 遠隔型自動運転システムの次期構築に向けた検討 等

本実証実験で用いる自動運転システムのポイント：動的運転タスクの安全技術に関する主な検証項目

■ 近時、既存の交通手段を補完する新たな輸送サービスとして、狭小な道や高台の住宅団地等における地域住民のラストワンマイル等の役割を果たすグリーンスローモビリティの活用が進められているところ。

※乗合バス事業、タクシー事業、自家用有償旅客運送で運行する場合は、既存の制度による支援が可能。

グリーンスローモビリティ: 時速20km未満で公道を走る、4人乗り以上の電動モビリティ

【グリスロの5つの特長】

- ①Green…CO2排出量が少ない**電気自動車**
- ②Slow…**ゆっくり**なので、観光にぴったり
- ③Safety…速度制限で安全。**高齢者**も運転可

- ④Small…小型なので**狭い道**でも問題なし
- ⑤Open…窓がない開放感が乗って**楽しい**

※乗合バス事業、タクシー事業、自家用有償旅客運送で運行可



4人乗り



7人乗り



10~16人乗り



【活用場面の例】地域住民のラストワンマイルとして。観光客向けの新しいモビリティとして。



京都府伊根町

■離合が難しい**狭小な道**。観光客が増えたが、道が狭く歩行者も**危険**。
 ■地域住民のラストワンマイル、観光客の移動モビリティとして、伊根町観光協会が**自家用有償旅客運送**による有償実証実験を2018年11月に実施



広島県福山市

■古くからの地割を残す**狹隘な道**。急な坂道が多い。
 ■地域住民の移動、観光客の移動モビリティとして、国交省の実証調査を実施。**タクシー事業**として2019年4月から事業開始予定



大分県姫島村

■瀬戸内海の完全**離島**。道は狭く坂は急。
公共交通空白地域。
 ■7月から**レンタカー事業**を開始。
 ■今後、高齢者の移動手段、観光客向けの**ガイドモビリティ**としても活用予定。



東京都豊島区

■池袋エリアの**まちづくり、ブランディング**の推進。
 ■**中心市街地を周遊**する観光客向けの周遊バスとして、2019年11月から**乗合バス事業**を開始予定。

平成30年度グリーンスローモビリティの活用検討に向けた実証調査

地域が抱える様々な交通の課題の解決と、地域での低炭素型モビリティの導入を同時に進められる「グリーンスローモビリティ」の地域での活用に向けて、地方自治体を対象に実証調査地域を募集したところ13地域から応募がありました。審査の結果、5地域を選定し、実証調査を行いました。2019年度も新たに地域を募集し、同様の実証調査を実施する予定です。

提案者	事業名称
福島県いわき市	被災復興地域の経済循環促進に向けた地域交通イノベーション実証事業 【被災地中心市街地での観光客向け定期周遊モビリティ】
三重県東員町	高齢化が進む住宅団地で共助によるモビリティサービスの実現 【名古屋圏圏域での住民向けデマンド型ラストワンマイルモビリティ】
岡山県備前市	鶴海お出かけちょい乗りカート運行事業 【福祉と連携した中山間高齢者向けデマンド型ラストワンマイルモビリティ】
広島県福山市	しおまち（潮待ち）モビリティ実証事業～国内唯一の近世港町「鞆の浦」の暮らしとおもてなしをつむぐ～ 【住民の暮らし、観光客のおもてなし、離島のお出かけモビリティ】
熊本県天草市	低炭素型モビリティを活用した世界遺産と住環境の保全支援事業 【世界遺産集落で住民生活と共存する住民・観光向けモビリティ】

【平成30年度実証実験の様子】

